

ヒッポのみんなのマナイマ～な暮らし♪

まいにち多言語

《Multilingual Natural Immersion》

Vol.4

2023年4月28日 発行

ウェブサイト <https://mainichitagengo.net/>

一般財団法人
言語交流研究所
ヒッポファミリークラブ



東京都渋谷区渋谷 2-2-10 青山 H&A ビル 3F
ヒッポ公式サイト <https://www.lexhippo.gr.jp>

大人も赤ちゃんのように

海外でのヒッポ作りや、ボランティアに参加できるヒッポのWIP (World Internship Project)。大学生年代から、社会人、子連れのママ、子育てが一段落したりお仕事をリタイアした人まで、いろんな世代のメンバーが世界各国で活動しています。



ヒッポを見つけた

のは娘2人がまだ小さかった30年前。講演会を聞いてひっくり返り、その日のうちにヒッポをやろうと決めた。1年後に息子も生まれ、家族でヒッポを楽しんできた。たくさん受け入れをし、家族交流や、子どもたちはヒッポの高校留学YLやWIPにも参加。娘はオーストリアで保育士、息子はロシアで小学校の先生のお手伝い。そんなWIPにいつか私も行けたらいいなと思っていた。

私は保育士を40年間続けてきたが、昨年3月に定年退職。前年から準備を進め、いよいよ私の番。帰国日を3人目の孫の出産予定日に合わせての3ヶ月の冒険、メキシコのチワワへ。私がWIPでやりたかったのは「Como un bebé」。「赤ちゃんのやることだけやろう」と心に決めて出発した。

メキシコに到着すると当たり前だけど分からない事だらけ。看板を見ても「字が書いてある」程度の認識。周りの会話もさっぱり分からない。でも心地いい。人のことばに聞こえるから。

WIP期間中は毎日オフィスに通い、オンラインヒッポのファミリーを楽しむ、週末は家族と過ごした。小中学校で国際理解授業をやらせてもらったことは地元の新聞にも取り上げられた。

私は6家族にお世話になった。最初のホストママはキッチンに立つと私にスペイン語で何やら話す。分からない



けど大波でとらえて、オリーブオイルを持ってきてみると「よくわかったね」と褒めてくれる。別の日はちょっとことばが違う。リンゴを持ってくるとこれもまた褒めてくれる。単語はわからない。でも褒められるのが嬉しかったし、何よりママに喜んでほしいと思う方が強かった。

繰り返しの中で分からないけど分かっていくのを感じる。字が書いてある事しか分からなかった看板も、読んでみたくなる衝動に駆られるようになった。一つ一つ文字を追っていくとホストパパも「そうそう!」とことばを重ねてくれる。昨日より今日、今日より明日と少しずつ分かることが増えて、今まで自分の中に溜まっていた音の何かのきっかけで引き出されていく。3ヶ月経った頃には看板を見ると看板そのものが向こうから情報を持って自分に近づいてくる感じがした。

10月の終わりに帰国し孫が生まれた。3歳と2歳と0歳の孫たちの振るまいも含めて自分のメキシコでの赤ちゃん体験が重なる。帰ってきて1ヶ月くらい経った頃には面白いことが

01

大人も赤ちゃんのように

02・03

高校留学YL / 冬の家族交流 / WIP / 大学生メンバー / 新人フェロウ / 地域の話題

04・05

投稿コーナー：ボクのワタシのマナイマ～な毎日 / 暖らんキャンプ

06・07

第9回LMPを支えた人たち / ヒッポ育ち座談会

08

カバ人のつぶやき / 海外ヒッポ / インフォメーション



あった。スペイン語では「ヨ」と「ジョ」の発音が曖昧になる。メキシコにいる時はどうやら曖昧な中にいて何とも思わなかったのに1ヶ月したら、それを聞き分けるようになった。日本語の耳になってしまったらしい。人間の仕組みっておもしろいなあ、と改めて思った。脳はエコにできている、ということばを思い出す。

メキシコヒッポを見てから、フェロウになりたい、という思いが強くなった。赤ちゃんの方法を垣間見ることができたことで、ヒッポのやり方に確信が持てたからかもしれない。まだまだ知らないこと、わくわくをヒッポの中に見つけていきたいと思う。

(U. Y. さん / 埼玉県・ぱおぱおF)

＼ ヒッポの高校留学&高校留学受け入れ ＼

ホームステイをしながら現地の高校に約1年間通う Year Long Program (イヤロン・YL) の2021年冬組がオーストラリア、アルゼンチンから10名帰国。またヒッポのメンバー宅にホームステイしながら高校に通うプログラム In Japan では、現在メキシコ、スウェーデン、ノルウェー、デンマーク、フィンランド、イタリア、タイ、ベルギー、スペイン、ブラジル、スロバキアから36名が来日中。

オーストラリア 私の世界が広がった

出発の日を心待ちにしていた2020年。世界では新型コロナウイルスが流行し、留学が難しい状況となりました。1年待って翌年の2021年、念願のYLがスタート。



到着して、お母さんがタイ人だと知り、オーストラリアでタイの文化に触れるとは思っていなかったのが驚きました。その上、私以外に中国人、ベトナム人の留学生がいて、家の中では4カ国語が飛び交っていました。お陰でいつの間にかタイ語も話せるように。例えばアロイマーやマイペンライ、お母さんが子どもによく言っていたレオレオなど。中国語、ベトナム語では何て言うの?と聞いたりもして多言語に広がっていきました。今はオーストラリアだけでなくタイやベトナム、中国、学校にはドイツ人留学生が多かったのもありドイツにも行ってみたいです。

家族は大きな愛で包み込んでくれました。私が泣いていた時、お母さんが「私はあなたのお母さんだからね」と言ってくれて、中国人留学生も「私はお姉ちゃんだよ」と

声をかけてくれてすごく嬉しかったし安心しました。

YLで大事にしていた3つのキーワード。「どんなことでもどうにかなる」「私の場合、何も考えないくらいがちょうど良い」「1mmも後悔しないYLにする」。自分自身と向き合い強くなれた今だからこそ、さらに自分の世界を広げていきたいです。(S. A.さん・高2 / 静岡県・サマサマF)

アルゼンチン 帰国した瞬間の羽田空港での動画

溢れる躍動感をご覧ください。

(K. K.さん・高3 / 東京都・アチャヘF)

N. K.さん・高1 / 東京都・ラササヤンF)



スウェーデン in Japan 生の12月のレポートより

えれんの漢字レベル♡れんかとほぼ一緒(笑)
小学校行きなこい(笑)、(通いなこい)(草)、
そういえば、自分の漢字を決めたんだ。いゝいゝ♡
「エ」と「レン」の読み方の漢字たくさんある
自分の選んだ漢字が...じまじめん~
驚愕 感 かわいいでしょ♡
(E. S.さん・高1 / 大阪府・箕面 Bocacho F)

ベネチア フェロウ 今思うのは、行く前の自分と今の自分は明らかに違う!

初めてのメヒコにWIPで行こうと思ったのは、ファミリーからYLでメヒコに行った子と一緒にメヒコ報告したかったから。でも迷ってなかなか申し込めないでいたら、「今ここで行ってメールを本部担当者に送りなさい」とってファミリーで言われて、その場で申し込みました。

息子2人がアメリカでのWIPを経験しているので、最初の1週間、ボストンに滞在。ボストンでは若き日のさかちゃん(ヒッポの創始者 榎原さん)を想い、ノスタルジーさえ感じました。あと、ホストがフェロウを目指していて、ヒッポについて語り合ったり、公園での体験会に参加したり、息子たちのホストファミリーとバーベキューしたり、ほんと“ヒッポ”でした。



次はメキシコに3週間。2件目のホストに引っ越す時、1件目のママが「そんな都会でやっていける?」って心配してくれた。どっちの家族もことある毎に兄弟で集まって

ご飯食べたり歌ったり踊ったり、報告で聞いてた通りだったけど、それがこんなにも幸せだとは思ってなかったかな。本当に行って良かった。(F. I.さん・フェロウノ千葉県・ルパルク・スリダF)



大学生メンバー このことばが今の私の軸になっている

Ciao Tutti!! 私はこの4月から社会人になります。私は本部で月2回、大学生中心で開催しているBubbleファミリーのフェロウを3年間やってきました。YL準備の頃から大学生になっても行き続け、自然な流れでフェロウに…。でもまさかのコロナでやったこともないオンラインへ。何をしよう、どうやって人を呼ぶの?と頭を抱えながら、みんなと一回一回を作ってきました。いや~適応能力めっちゃ上がったんじゃない?(笑)そして全国各地の人、特にYouthと繋がって、仲間がたーくさんできた!!!!

私は2017年にYLでイタリアに行きました。やっぱり辛いこともたくさんありました。ホストママが「せっかくイタリアを選んで来てくれたんだから辛い経験をする必要はない。辛いなら逃げなさい。自分がやりたい方を選択しなさい」と言ってくれました。でもただ「逃げる」のではなく、逃げた先で自分のやりたいことを全力でやることによってより良い方向へ「選択」をしたということにすればいいと学びました。私の高校生の頃からの夢は教育に関わる海外協力隊に行くことです。4月からは軽度の障害を持つ子どもたちの放課後学童の指導員をします。実務経験や保育士免許の取得。なんでもやってみよう、それが全部自分の夢に繋がっていくのではないかと思います。Grazie Mille. (I. Y.さん・大4 / 神奈川県・カンターレF)

＼ 冬の家族交流 ／

今年の冬交流は、リアルで行ったメキシコに加え、オンラインでは台湾16人・ロシア15人・中国28人が参加しました。

リアル交流

メキシコ 年末年始のメキシコ家族交流。なんと参加者私だけ！成田空港で家族やフェロウと別れた時、寂しさと心細さが…。



始めはあまりにスペイン語が話せず恥ずかしかったけれど、ホストファミリーはヒッポメンバー。開き直って、スペイン語だけでなく自分の知っている英語や韓国語ロシア語などを使いました。交流では赤ちゃんていることは自然なこと。分からない時には思い切りホストファミリーを頼り教えてもらおう!と思って過ごしました。ホストの感想文には「いえでふたりのあかちゃんいました。るかとエリ。エリはぜんぶでスペイン語メタカツしました!」と。(るかは1歳8か月の女の子。メタ活とは、ヒッポのマテリアル音源を聞こえてきたとおり自然に口に出す活動)

帰りのヒューストン空港で水をレジに置き、軽食を買おうと「This please」と言おうとすると「エステ…」とスペイン語が出て驚いた!「イングリッシュ? or エスパニョール?」と聞かれ、「イングリッシュ リトル」と答えようとしたが「イングリッシュ ポキート」と言ってしまった!自然にスペイン語が出てきて驚きました。(T. E.さん・大1/東京都・チェミツF)

オンライン交流

台湾 小学5年生のバディとお互いの趣味の音楽で繋がりました。彼のギターに、私は即興でピアノ、妻はバイオリンで応えます。教えてもらった台湾の歌詞で歌も歌い、ギター伴奏をして楽しみました。遠く離れた場所で多少の音楽のスレはあったけれど、そんなことを感じさせない出来栄で最高にお互いに楽しむことができました。(櫻井晃司/大阪府・Jung-AngF)



ロシア 年始のオンライン家族交流。バディはロマさん家族。ヒッポ育ちの21歳の息子が持つてあるありったけのロシア語で徳島の有名な物を紹介していたら、ロマさんが「イズビヤースニ」って音を投げてくれた。他にも「ミワ〜♥(かわいい)」とか、初めて聞いたような気がするのにすぐにその音を使ってどんどんロシア語が話せていきました。(T. T.さん・フェロウ/徳島県・ぴかぴよんF)



中国 家族みんなで楽しんだ交流。みゆみゆ、そうちちゃん姉弟の感想文より

(T. M.さん・小3、T. S.さん・小1/千葉県・市川グラシヤスF)

れねちゃんとかラオケをしてたのしかたです。

そうちちゃん
中ぶく語にきょうみがでた。
おしほプリカがじょうずに歌えた。
おとのかかちゃんかファミリーにきてくれて。
うれしかった。
みゆ かかちゃんか日本にきたら会いたい。

新人
フェロウ

大家族のお母さんみたいに

ファミリーは「多言語の公園」というが、公園なのに決められた曜日・時間しかオープンしてない…それなら数を増やせばいいじゃん!私がファミリーを作って!ドンと構えてワハハといつでも笑っている「大家族のお母さんみたい」なフェロウになりたいと、2家族の入会でファミリーをスタート。ファミリーでは、1人が歌うと同じ曲を別の子も歌う。大人も「台原二丁目」と聞こえてきた音がある場面を、何語かも知らずリクエスト。マイクタイムでは聞こえた音の話、子どもの自然習得の様子、楽しい話は尽きない。「うちの娘(4歳)は寝る時はお気に入りのマテリアルをたっぶり1時間聞いてから寝て、車の中では日本語のバスの場面をリピートでかけながら音源よりも先にセリフを言ってる」とトホホ顔で言うママ。その娘さんは、ファミリーでは「しな〜い!」とマイクを持ってくれない。でも日本語のバスを流すとママの後ろで小さく口が動いている(笑)。始めはママの背中に隠れて絶対離れなかった。それが今は他のメンバーと遊んでいる。

今まで他の子に興味がなかった。でもファミリーを始めてこの一年で大人も含めメンバーがどんどん変化していくことがおもしろくて楽しくて嬉しい。我が子の成長を見守っている気分。私もしかして「大家族のお母さん」に近づいてきた?(U. S.さん・フェロウ/宮城県・luana F)

地域の
話題

オープントラカレ・亀ちゃんとの出会い

昨年12月に開催された、亀山郁夫先生(名古屋外国語大学学長/ロシア文学)のオープントラカレ講座の作り手を担当しました。先生はヒッポの研究協力者で、今回オープントラカレに初登場。実は以前から偶然にも近隣の輪読仲間と1年1ヶ月かけ、先生翻訳のドストエフスキー『カラマーゾフの兄弟』全5巻2550ページを読破していて、こんなにも面白い小説を読んだことがない!とっていました。いつもの輪読仲間と東北地域の皆さんとでチームとなり、「亀ちゃん」と仲良くなりた!と準備を進めました。ご本人をzoomに招いた準備会では、ロシア愛、愛情の深さ、ドストエフスキーへの信頼など、亀ちゃんの魅力がほとぼしっていました。お話を聞いて、喜怒哀楽の中で人類の共通は哀しみであり、その癒えない哀しみと共に生き抜くために、宗教や哲学が始まったのかな?などとも考えました。

本番のテーマは『カタストロフィーと文学』。カタストロフィーとは災厄のこと。亀ちゃんは、文学にはそれを乗り越える力があると話してくださいました。文学を愉しむことで自分の心のあり方を鍛えられるかなあ。一緒に作り手をしてくださった、優しくて芯のある東北ヒッポ人へ心より謝辞&世界の出来事を「黙通」せずにゆきませう!(S. R.さん信夫留美子/千葉県・真棒F)

ボクの♡ワタシの マナイマ〜な毎日

投稿コーナー



絵：西澤 NEX・6歳



私が住んでいる水戸は外国の人が目に見えてどっさりいるわけではなけれど、多言語の環境はすぐ身近にあるなど最近特に感じます。いつも行ってるジムにはロシアから来ている女性が数人。「ぶりういえ!」「ハラショー!」なんて声をかけると嬉しそうに笑ってくれてすぐお友だちになっちゃったし、近所を犬と散歩していれば「可愛い!触ってもいいですか?」と声をかけてくれるエジプトの人、フィリピンの人。「どこから来てるの?」と彼らの国を聞いた瞬間に挨拶が口から出るからおもしろい!その音はメンバーたちと受け入れをした時などに教えてもらって大流行した楽しい思い出のある音だから、ホントにすらっとカラダのどこかから出て来ます。どこかにわざわざ行かなくても、構えなくても、多言語のある暮らしに浸れるんだなあ。(Y. Y.さん・フェロウ/茨城県・あぶりーれ F)



昨秋、広島大学の
に通うコートジボワールとマレーシアの学生と、ヒッポメンバーが広島
の自然と文化を満喫しました。広島市から車で1時間半の北広島町在住のメンバー宅へ。町内の山に登り、学生は紅葉と絶景に興味津々の様子。登山後は、農業を営むメンバー宅でBBQ。肉に、畑で採れた野菜に、箸が止まりません。さらに、学生は農業体験も。収穫した小豆を脱穀し、身を取り出す作業を手伝いました。小豆で作ったあんこを口にすると、「おいしい」を連発!



コロナ禍入会のメンバーも多く、初めての海外からきたお兄さん、お姉さんでしたが、打ち解けるまで時間はかかりません。学生も子どもたちと楽しそうに触れ合う光景が印象的でした。久しぶりの交流にベテランメンバーたちも初心に帰った気分になりました。これからもヒッポを通して広島の良さを発信していきます。(S. Y.さん/広島県・ウーノ F)



日中国交正常化 50 周年を記念し、中国長春理工大学・大連沸騰教育諮詢有限公司による多言語動画コンテストの募集があり、55 名ものヒッポメンバーが応募しました。昨年 12 月のオンライン表彰式では、一等賞 1 名、二等賞 2 名が受賞し、参加者 52 名にも賞品が贈られました。

この企画を通してますますお互いの文化への理解が増え、ヒッポメンバーの中国交流への意欲が高まったと感じました。(張英玉/国際事業部スタッフフェロウ)

コンテストの結果発表はこちらから→
(PDF ファイルでご覧いただけます)



皆さんからの「マナイマ〜な毎日」のネタをお待ちしています!
投稿はこちらまで↓(誌面の都合で掲載できない場合があります)

mainichi.tagengo@gmail.com

①本名(ニックネーム) ②お住いの都道府県 ③ファミリーネーム ④所属フェロウのお名前 ⑤お子さん & 学生の場合は学年も!

投稿フォーム→



Tufan さんはトルコイスタンブールにあるトプカプ宮殿博物館の主任学芸員さん。トプカプ博物館を訪問する国内外の著名人を案内しています。トルコと日本との架け橋になりたい!ということで今回の来日が実現しました。有田で陶磁器の研究留学している時に知り合った日本人の奥様とお嬢さんが佐賀にお住まいで、佐賀のヒッポにもお立ち寄りいただきました。

みんなでアーチを作ってトゥファンさんにお菓子のレイをかけてお迎え。歓迎会の司会進行は全て子どもたちが担当してくれました。手作りのトルコの旗で、トゥファンさんの紹介もしました。トゥファンさんもみんなにトルコの紅茶チャイを入れてくださいました。伝統的なトルコのチャイグラスまで重いのを持参してくれて、熱々を飲むようにタイミングを合わせて入れて下さいました。本当に優しい、おもてなしの心をお持ちの方でした。

(T. I.さん・フェロウ/佐賀県・カチカチ F)



4月からのファミリースタートに先駆けて、1月から仲間になってくれた自慢のメンバー家族を紹介します!

大人も子どもものびのび楽しめる環境が貴重!と、子どもたちと楽しく参加されているあすちゃん&たけちゃんご夫婦。まねっこ上手な2歳の息子さんは、初めて体験会に参加したときから「オーラ!」も「カイバイボ」も、なんでもまねっこ!お家でも「マシツヨ」「ニーハオ」「ウノ・ドス・トレス・クワトロ…」と言っているそう!会うたびに新しいことばが出てくる彼に、周りの大人は大興奮!4ヶ月の弟さんも楽しそうに声をあげています。聞こえてくる音を口にす、いつも「自然」を教えてくれています!彼らより少しお兄ちゃん、お姉ちゃんたちも刺激を受けて、みんな益々歌うようになりました!これからみんなと楽しく『自然ってどうなるの?』を見つけていきたいと思います!(H. E.さん・新人フェロウ/愛知県・graciasF)



現在 81 歳、ニックネームはしゅうしゅうです。定年を機にヒッポに参加するようになり約 20 年。心がけているのはファミリー一番乗り!目標は休まずファミリーに参加することと、100 歳まで元気にヒッポに参加することです!
(K. M.さん/愛知県・ノココ F)



スウェーデンからの留学生と



Munaimmer Kids Park (MKP) は多言語の公園で遊ぶう！をテーマにいろんな国のスタッフやインターンと彼らの母語に浸りながら多言語で遊ぶプログラムです。多言語が飛び交う中で意味が分かって分らなくても周りのみんなをまねっこして遊んでいるうちになんとなく分かってきちゃう！そんな環境を目指してキッズを中心に楽しんでいます。

昨年秋にはコロナ渦以来3年ぶりに会場での開催も実現し、0才の赤ちゃんから大人まで体全身で多言語の音を楽しみました♪これから来日する海外からのインターン生やヒッポの多言語環境で育ってきた若者やママたちとも一緒にますます多言語が溢れるMKPを創っていくので、大家 join us♪(井筒まさみ/国際事業部スタッフ)



留学生アリウナちゃんのご縁で、地元横浜市戸塚で開催したコンサート「モンゴルの音～故郷を探して」。アリウナちゃんとお父さんの馬頭琴、お母さんのモンゴル琴、姉弟のチェロとピアノに加えて、ヒッポメンバー大野さんも篠笛で友情出演、ヒッポの子どもたちも馬頭琴の伴奏に合わせて『スーホの白い馬』を朗読。アリウナちゃん家族で奏でる音楽のすばらしさと愛情があふれ、観客も子連れで参加した方も多く、まさにファミリーコンサートの名に相応しいものに！ばいーら！(K. N.さん・フェロウ/神奈川県・シオナダF)

コンサート当日の様子はこちらから。5歳の末っ子ちゃんの「ふるさと」の歌声に感動！→



小ネタ de まいたげ

▶サンフランシスコに住んでいる娘家族の家に遊びに来ています。4歳の孫娘が、「ヒゲ」の単語を知らなくて、「Daddy has spiky (とがった) things around his neck」と！子どもは、知っている限りのことばで、表現するのね。(N. K.さん/神奈川県・町田カーニバルF)

▶小1の娘は「はくさいは、くさいから食べない！」と言っていました。実際には食べてみたら「おいしい♪」と。また、工作で作った「UFO キャッチャー」をファミリーのメンバーに説明するのに「UFO キャッチャー」と言っています。聞こえていても、まだ言えない時期かな。(K. M.さん/東京都・ポンテF)

受験には「メタ活」が良いみたい？!

※「メタ活」とは、ヒッポのマテリアル音源を聞こえてきたとりに自然に口に出す活動。

▶受験勉強はつまらなかったのですが、息抜きによくメタ活していました。本番テスト直前の休憩時間に、英語のバスと英語のジャネットの手紙(ヒッポのマテリアルの一場面)を声に出してメタ活したら、頭の中が英語モードに切り替わって、緊張がとけてリラックスできた。そしてリスニング問題は、問題をメタ活して声に出すとわかりやすかった。高校受験を終えて、「メタ活やってよかった～」と思いました！(K. S.さん・中3/神奈川県・あんシャンテF)

▶私は多言語で入試の面接に臨み、合格しました。私の高校の推薦試験は面接のみ(内申点があることが条件)です。この半年間毎朝メタ活していたことをPRしようと考え、自己紹介はスペイン語、フランス語、英語、その後にアメリカホームステイやフランス留学の夢を語り、見事合格しました。苦手だったリスニングが大好きになりました。(H. N.さん・中3/愛知県・海F)

年末の暖らんふるさとキャンプ

2回目を迎えた暖らんふるさとキャンプ in 飯山市戸狩温泉、138名の仲間が自然の中で多世代の交流を思う存分楽しみました。

3泊4日、親と離れて過ごす子どもたちには様々なドラマが。食が細くてあまり食べられず、だんだん元気が無くなる子、ホームシックで涙が止まらなくなる子など。でも周りの仲間たちに見守られながら、それを乗り越える体験をした子どもたちの表情は凛々しくなっています。

去年来ていたことを覚えていてくれる宿の方やお土産物屋さんもいて、ヒッポを受け入れてくださっている戸狩とお宿の暖かさにも感動しました。(S. S.さん・フェロウ/埼玉県・ロープ☆ロープF)

どんと焼き。グループごとに自由に飾りを作ってきて、飾り付けました。



雪の土俵で相撲大会!



トーナメントで優勝!でも二名さんとのチャレンジマッチには惜敗…(K. K.さん・中1/埼玉県・みじんこF)



お餅つきも本格的!



みんなでしめ縄づくり!



第9回LMP Youth Tokyoを支えた人たち /

2023年1月22日(日)「第9回 LEX Multilingual Presentation for Youth TOKYO(LMP)」が東京ビックサイトとオンラインのハイブリッドで開催され、総勢 1500 人を超える方が参加しました。13 の国と地域から、44 組のプレゼンターが会場、自らの体験を若者たち(15~25 歳)が世界に向けて多言語(3 言語以上)で発信(当日の様子、受賞者については右の二次元バーコードから LMP 公式サイトをご覧ください)。ボランティアで集まった LMP スタッフは本部、ユースメンバー、フェロウで総勢 74 人で構成。スタッフみんながプレゼンターを輝かせたいと、事前準備から本番まで時間を惜しまず精いっぱいサポート。今回はスタッフの声をお届けします。



LMP 公式サイト

ユースメンバー 毎年変化がある、だからおもしろい!

LMP はプレゼンター、スタッフ、本部チーム、フェロウ、そして練習で聴くみんな、本番で聴くみんな…と数千人単位で人が関わって作る。いろいろな人がいるからいろいろな楽しみがあるのが LMP だと思います。



向かって左から2番目が Y. Y. さん

私は LMP には出演者、司会、パンフレット作りなど色々な形でかかわってきましたが、4 回目の今回は司会サポートで完全裏方として楽しませていただきました。

舞台袖では発表時とはまた違うプレゼンターの顔が見られます。リラックスしている子、バイオリンの弦が切れるハプニングがあった子、緊張しすぎて過呼吸になった子。少しでも緊張がほぐれたらと全員に声をかけました。またプレゼンターの控室では和気あいあいとしていて、出番を待っている舞台袖でも笑顔の子もたくさんいました。

私自身 LMP と関わることで、地域や他のファミリーの人たち、スタッフ、いろいろな人に知り合うことができました。また大学生が作り手の Bubble ファミリーのフェロウになったりとか、新たな仲間ができるきっかけにも。

同時に自分が人から紡がれる物語が好きだということに気づきました。プレゼンの主張の多様性と同じくらい、その人の経験の多様性、感性の多様性がある。しかもそれを知ると、世界がもっと広く見えるようになるし、相手を理解する、尊重する助けになる…ということもわかってきて、どんどん人のことを知りたくなったり、話を聞きたく

なったり、そしてその人のことを好きになったり! もっと人と会いたいと思う熱量は増え続けています。(Y. Y. さん・大3 / 東京都・あおぞら F)

フェロウ 出場を決めてくれたみなさん、謝謝!

LMP スタッフをやる事になった時、自分の地域(横浜北)からだけではなく、神奈川県からプレゼンターを送り出す?! 県内 5 地区のフェロウ、YL に送り出した親仲間、



向かって左が N. A. さん

ユース、YL 生の顔を浮かべ、ワクワクが止まりませんでした。募集説明会の告知がされてから神奈川中高大生の会をはじめ、色々な LINE グループに宣伝し、この子の話が聞きたい! という子には何度も声をかけまくりました。

参加者の準備のための LMP カフェを数回開催。今回エントリーが多かった日本の高校に留学中の In Japan 生もホストファミリーとカフェに参加し、不安が期待に変化していったようです。また学校や勤め先の関係で、現在ヒップオの活動をしている地域と育った地域が違うというプレゼンターもいました。準備会にはそれぞれの地域から応援隊が参加して、地域間交流の場にもなっていました。

私は時間が合えば色々なプレゼンターの準備会に参加し、それぞれ準備が違うことを目の当たりにし、自分の世界が広がりました。次回は第 10 回記念大会! 一人でも多くプレゼンターを送り出したい。息子も出場させたい!(N. A. さん・フェロウ / 神奈川県・ディアハッピー F)



／ ヒッポ育ち♥座談会 ／

ヒッポ育ちの社会人メンバーに、今、ヒッポについて思うことを聞きました。当日は2時間に及ぶ濃いオンライン座談会となりました。その中から「進路を決めたり、仕事をしていて、ヒッポがあったからこういう考え方ができたと思うことは？」の部分をお届けします。

わんぐい：YL はアメリカだったけど、大学では中国語を専攻。英語を選ばなかった自分を許せるのって葛藤があった。でもヒッポ仲間のお父さんが「英語くんとは親友のように仲がいいけど、中国語ちゃんもお友達の一人にしてあげたら？」って言うてくれて納得。1日の半分を中国語、半分は英語で過ごす大学生を送ったんです。就職するにあたり、外国との架け橋的なことができればいいなと物流の仕事に就きました。新入社員の時、ある部長から中国語でいろいろ話しかけられた。「中国へ行きたい？」とふつと聞かれて「機会があれば」みたいな感じで返したら、翌日、上司に「お前は中国行き決まった」と言われた。

ヒッポで毎週自己紹介をし続けるじゃないですか。「ニーハオマ？」って聞かれたら「ヘンハオ」って言うのと同じぐらいな感じで「機会があれば」って言うっちゃった。それで4年弱ぐらい中国で働いた頃、また上司が「お前をミャンマーに推薦しよう」と言うんです。なんかもうパニックになりすぎて「はい」と。ミャンマー語はヒッポにも無いし、どこにあるのかも全く知らなかった。でも、英語も話せるし、中国語も話せるし、他の国のことばだって多少はなんとかなるからとりあえず行こうと思ったんですね。

かずみ：私は幼稚園の先生で、中国、ベトナム、香港、タイとか日本人向けの幼稚園が途上国にいっぱいあって、たまたま中国の広州で働くことに。尊敬できる先生にも出会えたり、子どもたちもかわいいし、一歩外に出たら何か外国だし、漢字書けばなんとか通じるし、すごい楽しくて。この後、大連に行って日本に帰ってまた蘇州で働いて、次は日本で横浜の中華街にある中華学校で働いたの。そこでは日本人1割、7割華僑、2割中国人。日本にいるけど中国。だけど日本のこともできて楽しくて。



わんぐいのかずみ

わんぐいと結婚して、しょうがないからミャンマーに行くことに。ミャンマー語はすごく私にとって遠くて、それでも何か嫌ではない。1日中ローカルのバスに乗って市内まで行ったりとか。中華街を発見して、中国語通じるの最高って思って。本当にいるんなことばができて良かったし、全ては無駄にならないって思った。

ともにい：僕、履歴書にね、留学行きましたとわざわざ書いたんですけど、「いや、うちの会社全然海外とか進出しないし、英語なんか何も使わないけど」という会社です。

子どもの時はヒッポで同年代と遊ぶのが楽しかったけど、大学生の頃から多世代ってすげえって思うようになって

※カッコ内はヒッポでのニックネーム

● M. N. さん (わんぐい)

● M. K. さん (かずみ) 栃木県・太田ピスタチオF

ヒッポで出会って結婚。夫は岐阜県5歳の時に、妻は中学生の時に埼玉でヒッポと出会う。今は2歳の息子、もうすぐ1歳の娘と家族4人で活動に参加。この春からヒッポのフェロウになって、新しくファミリーを立ち上げたばかり。高校生の時、YLで、夫はアメリカ、妻はフランスへ。

● U. T. さん (ともにい) 大阪府・uuuuF

24歳社会人1年目。3歳の頃から、一人暮らしをしている現在まで家族と同じファミリーに参加。高校生の時、YLでアメリカに。

● K. T. さん (サリー) 千葉県・ガンビーラF

5歳から北海道旭川でヒッポに参加。現在は夫と、小1、10か月の息子たち、年少の娘と楽しんでいる。大学時代にイギリスに1年留学。

で、僕も頼りになるお兄さん、そんな一員であつたらいいなって思うようになった。

地元が大阪なんですけど、就活の時に関西以外で仕事を探すようにしたんですね。東京で内定をもらって、よっしゃじゃあ4月から東京や。どこの辺に住もうかな。そしたら毎日ヒッポ行けるやん。でもやっぱり尼崎で働いてくれてと言われて、僕の東京ライフは幻に終わった。3月末頃にね、「ともにいが東京に行ってしまう」って勘違いして、ファミリーにたくさん人が集まってきて。ホンマに1年ぶりとか、全然ヒッポ来ないやんって人も来てくれたりして、愛されてたんやなってすごく嬉しくなった。ファミリーのメンバーもフェロウも大好きやから、やっぱり僕はここじゃないとあかんって思ったんで、社会人1年目、お仕事も大変ですけど、ファミリーの時間には絶対間に合うように働いていきたいなって思ってます。



ともにい

サリー：中国の子会社でやるプロジェクトに参加したの。現地で新しいシステムの導入が終わって運用を開始ってなった時に、それを



サリー

担当してくれる現地の経理部の部長さんがすごいいい人で優秀だったんだけど、なんかあからさまに心ここにあらずみたいな感じになっちゃった。なんでだろうと思って、とにかく探したら、どうも転職を決めたらしい。その人の責任範囲の中にこのプロジェクトをしっかりと受け継ぐっていうことが入ってることを、日本人の上司に私からお願いしてちゃんと伝えてもらった。渋々だけど受けてくれて、無事期日までに現地の人だけで回せるようになって成功。

その時にね、周りはやっぱ中国だよなみたいな感じだったの。でも自分の中では絶対糸口があるはずって。共感はできなくても理解はできるんじゃないかっていう信念みたいなのが自分の中にある。それはこれまで色んな人と出会ってきて、こういう理由でこの人はこうしたんだとか、見えてくるものがあるはずってという思いが自分の中にあつたから。ヒッポで人と一緒にやることの楽しさを見つけれたとおもうてます。

(文責：まいにち多言語編集チーム)

カバ人のつぶやき

知人の家族が中国の広州市に転勤になるという話を聞いた。新住居が100階建ての高層マンションの88階だそう。お子さんが3人いて小学校の低学年、幼稚園、未就園児だという。瞬間「良くないな〜」と呟いてしまった。会社の指示なので拒否できないのだろうが、お父さんの勤務には確かに便利な位置にあるのだろう。しかし住環境としては如何なものか?と思ったのである。

以前より時に触れてお話しすることがあったのだが、高層の場所に住むことについて皆さんも改めて良く考えてみて欲しい。多分風や雨の音は殆どきえないだろう。虫の音は尚更だ。木々や林・森からの自然の香りなども無いはずだ。

体全体の感覚を五感というが、人間の発達・情操の生育には自然との触れ合いが必要なことは言うまでもない。ついつい目の前の便利さ(通勤・通学・買い物)などのほうに意識が行ってしまい、小さなお子さんの体験・生育のことをうっかり見逃してしまっているのではないだろ

うか?時々キャンプに行ったり海に行ったりされるのかもしれないが、時々ではなく普段の生活環境が大切なのだ。特に大人になる前の幼い時や青少年時代には、多様な自然や人との触れ合いを十分に体験させてあげたい。

もう一つ、東京の中心地の高層マンションに住む人の話。約4000人がそのマンションに住んでいるそうだが、一人として知っている人はいないという。2年ほど前に東大病院のメンタルヘルス専門の教授の話を聞いた。「この10年少しで、都市部に住む人たちの、メンタルヘルスにおける悪化の割合が増えている」という。

多言語雪の学校の下見に訪れた、長野県飯山線の車窓から見える雄大な自然と雪景色に魅せられながら、都心部など高層ビルに住む人たちの家族、特に小さなお子さんをお持ちの家族の将来は大丈夫なのかな?と改めて考えてしまったのである。

(鈴木堅史・言語交流研究所代表理事)

Information /

● MITのスザンヌ・フリン教授が6月に久しぶりに来日されます。コロナ前の2019年以来4年ぶり! 26日(月)には東京で、29日(木)には福岡でワークショップなども開催予定です。

スザンヌ先生について→
詳しくはこちらで



● モンゴル語のマテリアルはお手元に届きましたか? お家でもファミリーでもたくさん聞いて、みんなでいっぱい歌いましょう。

● リアル交流が戻ってきました! 青少年交流ではアメリカ・メキシコに加えて、台湾、イタリア、マレーシアが、家族交流ではメキシコに加えてフランスが久々に復活。たくさんメンバーが海を渡る準備中。

● 新規交流&Campプロジェクトも続々と!
「沖縄やんばる・はまばる 海と森そして大きな空 多言語ネイチャーキャンプ」「モンゴルゲルネイチャーキャンプ交流」「カザフスタン・キルギス交流」。パイオニアならではの冒険が楽しみです。



el congreso de 25 aniversario en Huatusco! 8月の4~6日 Vamos a disfrutar todos con corazón abierto (Fernanda Mares / Coordinator & Fellow)

▶ LEX America:

New Homeschoolers Club in Cambridge
LEX America recently launched our first pandemic-era in-person language club. Many families in the Boston area choose to educate their children at home, and this club seeks to bring these families together to learn languages the LEX way. That's why it's called the Homeschoolers Club, but anyone is welcome! The club meets in the park or in the LEX office with masks. Either way, members love dancing, acting out stories, and making drawings while listening to and sharing many languages. Come join us! (Elizabeth White / Executive Director)



海外ヒッポ /

WORLD HIPPO

▶ 韓国ヒッポ:

三世代でホームステイから学んだこと

¡Hola amigos hippo!
This is GUGU from Seoul! My 長女 Angel started her first 青少年 homestay this time. 娘は日本



語で話す必要がなく、ホームステイがとても楽しかったと感想発表をしました。「일본에 갔으면 일본어는 좀 하고 와야 하는 거 아냐? (日本に行ったら日本語はちょっとやって来るべきじゃない?)」と私は思っていました。しかし私は間違っていました。言語は私たちの究極の目標ではない、と私は思いました。

私は31年間、私たちの家で過ごした数多くのHippo guestを通して成長しました。私の母親Ryuは大阪でホームステイしてきて、ホストママの優しさを見て、(ことばの)訓練よりも娘との関係がより重要であることに気づいたと言いました。娘と友だちのように生きることができることをホー

ムステイを通じて学ぶことになったのです。I want to be a best friend to Angel like my mom.

¡La próxima vez, es México! I will continue my challenge in Mexico someday! できれば母親も一緒に親子三世代で行くHippo Homestayにしたいです。

¡Muchas gracias!

(K. J.さん / 호수 호스F)

▶ LEX México:

México Hippo Memorial Year!

Hola todos! Hao ma? We are so happy! 왜? 今年はHippo Méxicoの25周年と日本とメキシコの



交流は35周年 qué padre! 考えると一緒に長い道を歩いて来たね、これからもすごく楽しみにしています。ヒッポはみんなで作っていくからHippo Méxicoの祝いも一緒に過ごしたいです。

メキシコのこと大好きみなさんに感謝しています。Entonces... ¡te esperamos en